

ももの高品質安定生産のための好適生育基準の指標化

【要約】 もも「八幡白鳳」の満開後30日、及び満開後60日の各ステージにおける樹相を調査し、高品質安定多収が可能な樹相を数値によって指標化して好適生育基準を策定した。

園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室

連絡先

092-922-4111

部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	果樹類	分 類	普 及
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【背景・ねらい】

気候が温暖で生育期間中の降水量が多い九州では、一般にももの生育は旺盛で徒長傾向が強く、新梢伸長停止期の遅れ、徒長枝の強大化、及び樹冠の過繁茂により着色不良や糖度不足など果実品質の低下を来している。また、過繁茂による樹冠内部の受光量の不足は、結果枝の充実を悪くし生産不安定の原因になっている。そこで、「八幡白鳳」を用いて生育期別の好適生育成熟パターンを明らかにし、好適生育基準を設定して高品質果実の安定生産技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①もも「八幡白鳳」では、満開後30日、及び満開後60日の数値を生育基準の指標化のために用いる。
- ②目標収量及び果実品質は、1果重200g、糖度10%以上、結果数10,000～12,500果/10a、収量2～2.5t/10aとする。
- ③満開後30日の指標化の項目は、葉の大きさ、葉色、側枝先端の新梢長、及び果実の大きさ（縦径、横径）とする。
- ④満開後60日の項目は、新梢長、葉色、新梢伸長停止率、LAI、及び果実の大きさとする。

【成果の活用面・留意点】

- ①露地栽培の八幡白鳳の生育診断に利用する。

[具体的データ]

表1 好適生育基準の指標 (もも：八幡白鳳)

時期及び項目	生育基準	備 考
目標収量及び品質 (収穫時)		
1果重	200g	
果実糖度	10%以上	
結果数	10,000~ 12,500果/10a	
収量	2~2.5t/10a	
満開後30日		
葉の大きさ	22~25cm ² 縦:10.5~11cm 横:3.0~3.5cm	不着果節位の短果枝の基部より5枚目の葉。小さければ樹勢が弱い。
葉色	37~40	同上。葉緑素計値MINOLTA (SPAD502)。小さければN不足。
新梢長	3~8cm	側枝先端の新梢。短ければ樹勢弱い。
果実横径	22mm以上	縫合線と平行に測定。小さい果実、変形果は摘果。
満開後60日		
葉色	44~46	葉緑素計 (MINOLTA:SPAD502) 値。小さければN不足。
新梢長	22~35cm	側枝先端の新梢。短ければ樹勢弱い。
新梢伸長停止率	70~80%	側枝先端の新梢。
果実横径	49mm以上	縫合線と平行に測定。小さい果実、変形果は摘果。
果実縦径	54mm以上	同上。
L A I	2.5~3.0	徒長枝除去後、プラントキャリパーで測定。大きければ過繁茂。さらに枝抜きが必要。

[その他]

研究課題名：開発技術の体系化

予算区分：国庫 (地域重要)

研究期間：平成5年度 (平成2~5年)

研究担当者：林公彦、牛島孝策、千々和浩幸、姫野周二、吉永文浩、鶴丈和、恒遠正彦

発表論文等：平成2~4年度落葉果樹試験研究成績概要集、平成2~4年果樹部成績書